



## 千葉県公立高校本検査学力検査の分析～国語編

出典: 総進図書

- ◎他県にくらべ、テストの内容が盛りだくさん、時間配分がカギ!
- ◎文章の読解のスピード、「自分の言葉」で文章をまとめる力が必要! 古文の学習も忘れずに!

●問題の構成では、一昨年度から言語事項の大問が(配点8点)がなくなり、大問が3年連続で7問だった。読解問題の配点が全体の6割以上を占める。文学的文章の読解の配点が昨年度より1点増、古典の読解が1点減。

●H27年度以降「聞き取り検査」は同様の形式。最初から問題冊子を開いた状態で放送が開始し、会話と設問を交互に読み上げる形式。放送時間は6分57秒で、昨年度より約13秒減。「文化祭のクラスの催し物について相談している場面」がテーマ。本年度はなかったが、資料が明示される場合も多い。3年連続で4問とも記号選択問題で記述問題がなくなった。H27年度以前の「聞き取り検査」では毎年形式を変えて出題していたので、来年度の変更の可能性はあり得る。いろいろなパターンの問題に取り組み、練習しておくことが必要だと思われる。

●漢字の読み方は中学校で学習する漢字だが、大問三の書き方については、ここ3年は小3～6の学習漢字が出題(右資料参照)されている。近年、四字熟語が頻出で、H30「油断大敵」、R1「起死回生」、R2「針小棒大」、R3「博覧強記」、昨年度は「旧態依然」、そして今年度は「年功序列」が出題された。

●文章題は、例年、説明的文章、文学的文章、古文の3問が出題されている。文章の内容的にはわかりやすいものであったが、設問の中には難易度の高いものも含まれていた。設問の傍線部周辺を読んだだけで解答を導き出せるわけでないものもあり、文章全体を読む必要がある。また本文だけではなく、設問の中にも本文と同じ著作に関連する別の文章や本文を読んだ生徒間の話し合いの場面、感想文が別資料として提示されていて、複数の資料分析を通してさらに深く読み解くような工夫された問題も多くなってきた。古典(古文)については、文章の横に訳が付いているものがあるが、登場人物に注意してその訳と注釈をヒントにして読めば、おおよそ内容が理解できる。以前に比べ、古典読解の配点も拡大しているので、歴史的仮名遣い、基本的な古語、文法、係り結びの法則等に注意したい。漢文の訓読も毎年出題されている。返り点のつけ方も確認が必要。後半の問題なので、時間配分に要注意。

●毎年記述式問題が多く出題される。今年度は6問出題。「文章中の言葉を用いて○字以上○字以内で書きなさい」という一般的なもの以外にも「(…と…とは…)」という形を使って20字以上25字以内で書くこと」等細かい条件がある場合もある。今年度は30字以上、40字以上と字数が多く、正答率が2.0%というような難易度の高いものもありました。また「文章中から抜き出して書きなさい」という形式の問題も多く22字や23字といった文字数の多い抜き出し問題が目立った。

一	放送の聞き取り	8点	正答 72.2%
二	漢字の読み方	8点	正答 91.0%
三	漢字の書き方	10点	正答 62.1%
四	説明的文章の読解	22点	正答 46.2%
五	文学的文章の読解	23点	正答 40.4%
六	古典(古文)の読解	17点	正答 36.0%
七	作文	12点	正答 36.8%

網掛け数値は、部分点のある設問について、得点率を正答率として算出した

- (5) 年功 **ジョレツ** の制度。
- (4) 映 **し** 分野の雑誌を **ソウカン** する。
- (3) 映画は **ヒビョウ** をする。
- (2) 初日の出を **オガ** む。
- (1) 知り合つてまだ日が **アサ** い。

【正答率】

- (1) 76.4%
- (2) 20.7%
- (3) 66.4%
- (4) 50.45
- (5) 7.1%

三 次の(1)～(5)の — のカタカナの部分 **を漢字に直して、楷書で書きなさい。**

●作文は「日本と諸外国との文化交流を進めることの意義」についてがテーマ。200字以内で、資料として「諸外国との文化交流が国際関係の安定につながると考える人の年齢別割合」が明示されていた。これら資料から2段落構成で、前段には資料から読み取ったこととそれに対する自分の考え、後段では今後諸外国との文化交流を行う機会があれば、具体的にどのような交流を行いたいかを書く問題だった。これまでは、前段で資料から読み取ったこと、後段で前段の内容を踏まえて自分の考えを書くことがほとんどだったが、近年、指定される条件が複雑多岐になる傾向にある。

●作文では与えられる条件や資料によって、難易度が左右するが、今年度は「外国との文化交流の内容」というあまり経験のない着想を要求されたため、戸惑う受検生が多かったように見受けられる。自分の経験と結びつけることも重要だが、作文を書くときに「未経験の内容を想像して書く」という作業ができていないかを試される設問だったと言える。作文は毎年出題されるので、作文に対し、十分な対策をとって試験に臨む必要がある。中学校の定期テストや到達度確認テスト、会場模試等で必ず出題されるので、その機会を有効に活用するとともに、日頃から自分の意見を持つこと、文章でわかりやすく伝える練習を重ねることが、一層大事だと言える。

●漢字の読み書き、文法の知識等、反復練習を重ねることで得点が見込めるものは、確実に学習する必要がある。時間をかければかけるほど努力は成果となって表れるはず。また、記述問題への対策も必須。これは一朝一夕には出来ない。「ポイントを押さえて〇字以内にまとめる」といった訓練を日頃から行うことが大変重要と言える。

●聞き取り検査や作文があることを考えると、50分の中ですべての問題に余裕をもって取り組むことはかなり難しい。それぞれの問題にどのくらいの時間を配分するのかといった時間の使い方を考えることが大事。また、「読んで理解する」スピードも重要なポイントとなるので、日頃から短い文章に慣れておくようにすることも大切。

●日頃から文字を書く習慣をつけるようにすること。「読んで理解する」スピードと同様、「文字を書く」スピードも大切。最近の中学生は、スマートフォンでメールを「打つ」、パソコンのキーボードを「たたく」スピードは速いようだが、「文字を書く」スピードは年々遅くなっている。「文字を書く」スピードの訓練も意識し、訓練しよう。

**令和6年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学力検査の出題方針等について**（県教委 7/19発表） **国語**

- ア 学習指導要領に基づき、国語の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにする。
- イ 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにする。
- ウ 自分の立場や考えとその根拠が明確になるように、複数の情報を整理し判断する力をみることができるようにする。
- エ 言葉による見方・考え方を働かせ、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにする。

昨年度と同じ

**【資料】**

「日本と諸外国との間の相互理解や信頼関係が深まり、国際関係の安定につながる」と回答した人の年齢別の割合

年齢別	20 - 29 歳	22.6 %
	30 - 39 歳	23.8 %
	40 - 49 歳	24.3 %
	50 - 59 歳	24.6 %
	60 - 69 歳	31.9 %
	70 歳以上	41.1 %

（文化庁「文化に関する世論調査 報告書（令和4年3月）」より作成）

七 次の「資料」は、「日本と諸外国との文化交流を進めることの意義」について質問した結果（複数回答）の一部です。これに関して、あとの条件にしたがって、（注意事項を守って、あなたの考えを書きなさい）

（条件）

- ① 二段落構成とし、十行以内で書くこと。
- ② 前段では、「資料」から読み取ったことと、それに対するあなたの考えを書くこと。
- ③ 後段では、前段をふまえて、あなたが今後諸外国との文化交流を行う機会があったら、具体的にどのような交流を行いたいかを、その理由とともに書くこと。

（注意事項）

- ① 氏名や題名は書かないこと。
- ② 原稿用紙の適切な使い方にしたがって書くこと。ただし、「――」などの記号を用いた訂正はしないこと。

問	内容	得点	正答率(%)
七	作文 200字 以内	12点満点	9.6
		8~11点	18.3
		4~7点	23.0
		1~3点	13.3
		0点	35.8
		無回答	13.4